



校長室だより

R6. 7. 3. 号

岐阜市立東長良中学校

いじめについて考える日

令和元年7月3日、一人の尊い命が帰らぬものとなりました。その時から今日で5年が過ぎようとしています。今年度は二十歳を祝う会を迎えます。

岐阜市の小中学校では、これまで毎月3日にはいじめを見逃さない日、7月にはいじめについて考える日として、すべての小中学校の先生や児童生徒が改めて命の尊さやいじめについて考えています。そこには2度と同じ過ちを繰り返してはならないという強い思いが込められています。6月24日から始まったいじめ未然防止強化週間。HEROSの皆さん、良さ見つけ、絵本の読み聞かせやいじめに関する対話等、様々な取組をありがとうございました。また、この取組を学校だけでなく地域の方にも知っていただきたいとチラシを作製、公民館に掲載しようと考えてくれました。また、PTA本部役員の方々の力を借りて、校区の様々な場所に掲載していただきました。皆さんはやがては本校を卒業し、地域の一員として生活を送ります。将来にわたっていじめの取組が継続するよう本校の取組が地域へと広がる第一歩となってほしいと思います。

さて、2・3年生の人たちは知っていますが、昨年度まで毎月3日のいじめを見逃さない日の朝、全校で黙とうをしていました。今年度からは、黙とうではなくいじめ対策監の先生その日の心構えを聞く時間としました。ご遺族の方は「毎月息子を悼む意味での黙とうはしていただくなくて結構です。それより毎月3日のいじめの見逃さない日は、東長良中学校の生徒の皆さんが、この先仲間を大切に、いじめのない生活をしていくために考える日としてほしいです。」と言われました。毎年命日である7月3日が近づくと、「7月3日の朝、いつもと変わらない息子の姿にどんな気持ちで息子は家を出ていったのだろうか？もしかしたら、苦しい気持ちを気づいてとっていたんだろうか？気づいてあげたかった。できることなら時計の針を戻したい。」5年たってもわが子を失った悲しみは消えるどころか無念さが募ります。その悲しみや苦しみを乗り越え、東長良中学校の生徒の幸せを願い、命を大切にしてほしい。とても重い言葉です。

もう5年前の事じゃないか。当時の生徒は卒業している。そんな風に言う声を耳にします。みなさんは小学生でした。1年生の皆さんは小学2年生。そんなに記憶はないと思います。東長良中学校で時代にいた先生は数名になりました。でも、遠い過去の事としてしまっているのでしょうか。ひとりの先輩が命をかけて伝えてくれた私たちへの貴重なメッセージです。

5年前のことは決して風化させてはならないと思っています。なぜなら、この悲しい出来事を教訓として、中学校生活や将来を考えることは皆さんにとって、とても大切に有意義なものだからです。昨年度は、当時同じクラスであった先輩のメッセージを聞き、その行動を考える機会がありました。その時の皆さんの真剣なまなざし、姿勢。今朝1年生の学年朝の会、当時いた教員である学年主任の高木先生がその思いを話されました。その話を聞く様子も全く同じでした。入学してわずか3か月ですが、東長良中で大切にしていることをわかっていてくれて、とてもうれしく思いました。

今、取り組んでいるHERO作文。これまでの自分と向き合い、振り返りながら、思いの詰まった作文ができたものと思います。今日はその思いを仲間と交流しながらじっくりと深めてください。